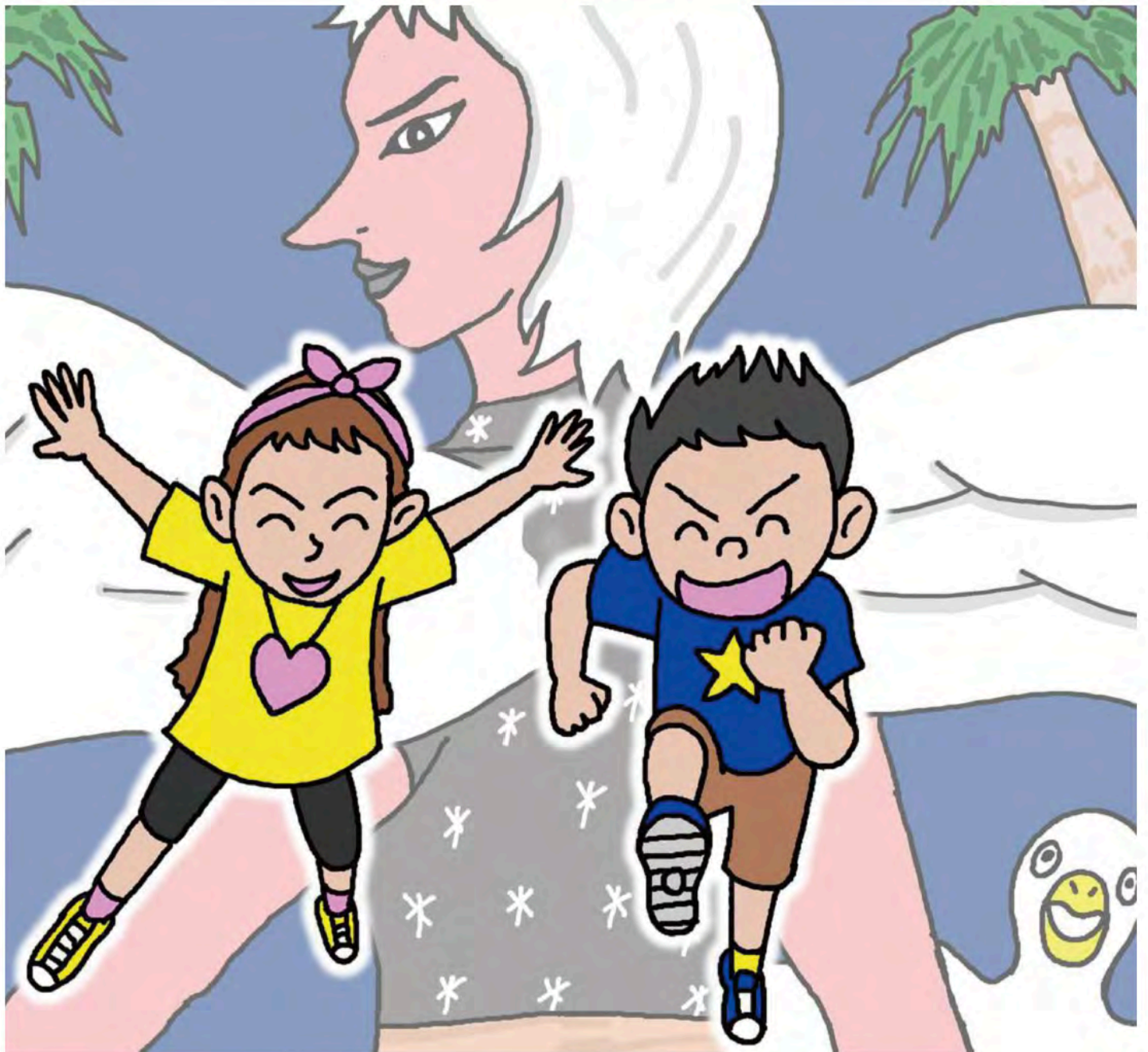


社会科副読本
小学校3・4年生

ふるさと 北大東村のくらし

社会科副読本
小学校3・4年生

ふるさと北大東村のくらし



北大東村教育委員会

もくじ

1	わたしたちの島たんけん	2
	① 学校のまわりには何がある？	② 島中をたんけんしよう
2	島ではたらく人	12
	① 生産：農家の仕事	② 販売：お店の仕事
3	島の安全を守る人	20
	① 駐在さんの仕事	② 消防団の仕事
4	島のうつりかわり	28
	① 古い道具から考える	② 古い地図からわかること
5	水はどこから・ごみはどこへ	36
	① 健康を守る飲み水	② 生活環境を守るごみの処理
6	きびしい自然とともに	42
	① 自然災害を知る	② 防災のしくみ
7	島をひらいた人・島の文化	46
	① 先人に出会う時間旅行	② 島の伝統文化を考える
8	島のみりょくづくり	54
	① 特産品ができるまで	② 文化財をいかしたまちづくり

タケル



元気いっぱいの
4年生の男子。
運動大好き。

アマネ



好奇心いっぱいの
3年生の女子。
ダンス大好き。



アホウ

おんな天狗のおともで、
アホウドリの化身。

おんな天狗

むかしから島を
見守ってきた
不思議な存在。

たんけんのはじまり



「この島なんか変わってるよね。お祭りのおみこしとか、大東太鼓・大東寿司とか。テレビなんかで見る沖縄のお祭りや食べ物とふんいきがちがうなって。」



「名前も変わっているよね。チバナとかミヤギとか沖縄のみょう字も多いけど、オキヤマとかアサヌマっていうのはオキナワっぽくはないよね。」



「どうしてかな？」



「たしか、ハチジョウっていうところと関係があるはずだよ。」

「なかなか感心な子どもたちだ。ときどき、こんな子どもたちが出てくる。では、ヒントを出してみちびいてやろう。アホウ、これを2人の上から落としてやってくれ。」

アホウは、おんな天狗から受け取ったものをくわえて飛んでいき、2人の上から落としました。



「何か落ちて来たよ。おんな天狗だって！ぼくたちの話を聞いていたんだ。」



「なんだかおもしろそう。ねえ、ウラにも何か書いてあるよ。」

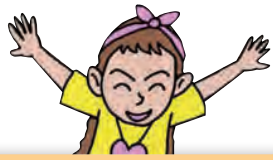
おまえたちの島たんけんを
助けてやるでおじゃる

わしのことは誰にも言うな
おんな天狗

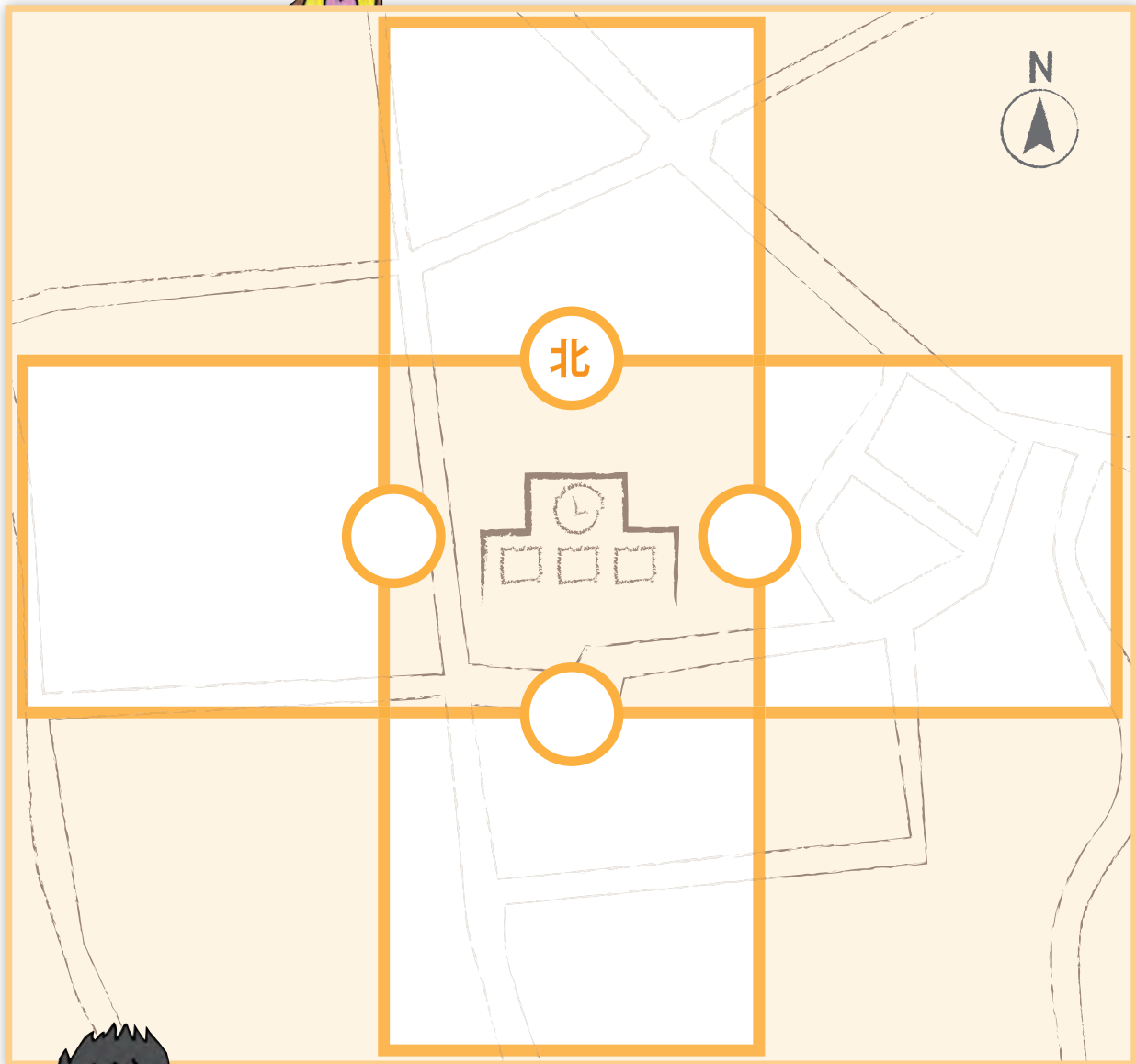
1 わたしたちの島たんけん

① 学校のまわりには何がある？

タケルとアマネは、おんな天狗^{てんぐ}から受けとった紙をうら返してみました。



「上から見た学校のまわり
みたいよ。」



「まん中は学校だね！
まわりに何があるか調べてみよう！」

やってみよう

- 1 学校のまわりには何があるかな、それぞれの方位を見てみよう。
- 2 左のページの○の部分に入る方位を書いてみよう。
- 3 左の四角の中には、それぞれの方位に見えるものを書いてみよう。

「学校のまわりにはいろいろなものがあるのね。」



「学校からは海が見えないよ。」



考えてみよう

- 1 どの方位にも見えるものはなんだろうか。
- 2 学校から海が見えないのはなぜだろうか。

そこに空からまた紙が落ちてきました。



「3枚は学校近くの地図だ。たんけんして見つけたものを書きこんでみようか。」



「もう1つは地図記号が書いてある。見つけたものの地図記号を調べて書いてみるのかな？」

<p>文</p> <p>がっこう 学校</p>	<p>しょうぼうしょ 消防署</p>	<p>ちゅうざいしょ 駐在所</p>	<p>しんりょうじょ 診療所</p>	<p>やくば 役場</p>
<p>㍻</p> <p>じんじゃ 神社</p>	<p>とうだい 灯台</p>	<p>こうじょう 工場</p>	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]

やってみよう

- ① それぞれの地図の場所を歩いてたんけんしよう。
- ② 歩いていて気になったもの、目印になるものを地図に書き入れてみよう。
- ③ 見つけたものの地図記号を調べて、表に書いてみよう。



学校から北側^{がわ}の地図ね。

1枚目



考えて みよう

- 1 学校はいつからこの場所にあるのだろうか。
- 2 ハマユウ^{そう}荘はどうしてこの場所につくられたのだろうか。

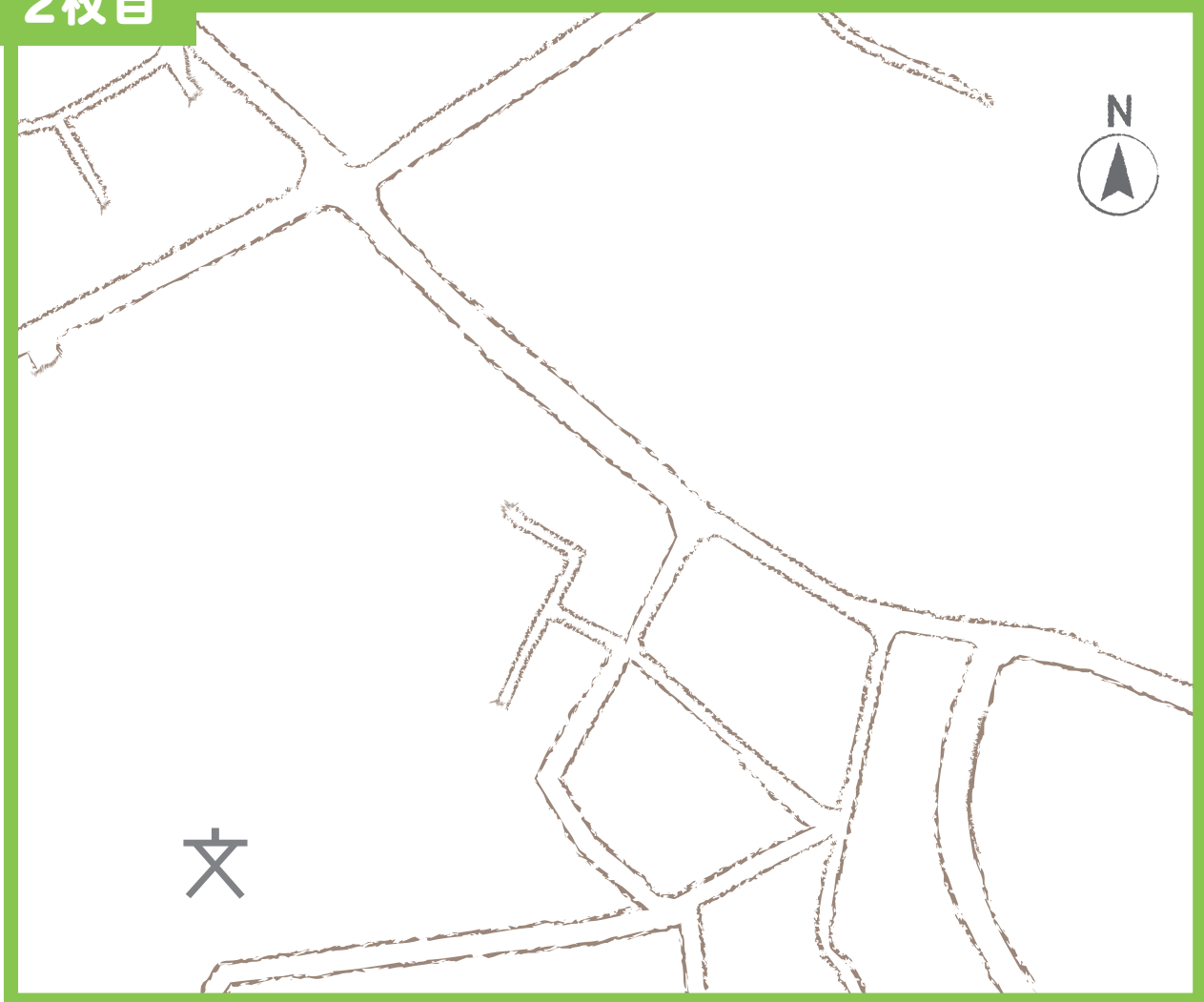


ハマユウ^{そう}荘



学校から役場あたりまでね。

2枚目



「こんなところに
ビロウの林があるん
だね。」



「ビロウはヤシの仲間で、
これは“ダイトウビロウ”
というんだよね。」

考えて みよう

- 1 ここにはどんな^{たてもの}建物が集まっているのだろう。
- 2 ビロウの林を大切にしているのはなぜだろう。



ビロウの林

だいとうぐう
大東宮まわりの地図ね。



3枚目



せいとうこうじょう
「製糖工場が
あるよね。」



「これで学校のまわりの
地図ができたよ。」

考えて みよう

- 1 大東宮はいつからここにあるのだろうか。
- 2 製糖工場がここにつくられたのはなぜだろうか。



大東宮

② 島中をたんけんしよう

島全体の 写真

2人に空からおんな天狗便てんぐびんがとどきました。
1枚は空から見た写真。もう1枚は地図でした。



写真：2008年国土地理院より



「島を上から見た写真だね。畑が多いのがわかるよ。」



「学校はどこにあるのかな？
島のまん中を囲んでいる濃いみどり色の線はなに？」

島全体の 地図

これは島の地図ね。
島は3つに分かれているのね。



やってみよう

- 1 3つの字(字^{あざ}港^{みなと}、字^{なか}中野^{のみ}、字^{みなみ}南)に分かれて、たんけんしよう。
- 2 字ごとにたんけんで見つけたもの、気になったものを書き入れた地図をつくってみよう。
- 3 字のちがいを話し合ってみよう。

プラス 学習

テーマを決めて、地図をつくってみよう。
(交通マップ、観^{かん}光^{こう}マップ、住^{じゅう}宅^{たく}マップなど)

島全体の地図と写真を見ながらタケルが言いました。



「どこかで島が見わたせないかな。」

その時、昼間なのに灯台とうだいが光りました。



「そうだ！灯台よ。」

そこに役場のユウジさんが
通りかかりました。



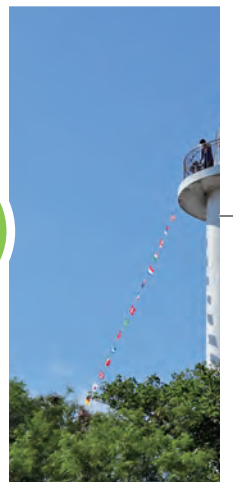
「灯台の上から
島の写真を撮るけど、
いっしょに来るかい？」

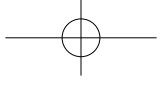
「もちろん!!」



やってみよう

- 1 灯台に登って島を見わたしてみよう。
- 2 それぞれの方位に何が見えるのかを地図に記入してみよう。
- 3 南大東島や沖縄本島はどの方位たしにあるかを確かめよう。

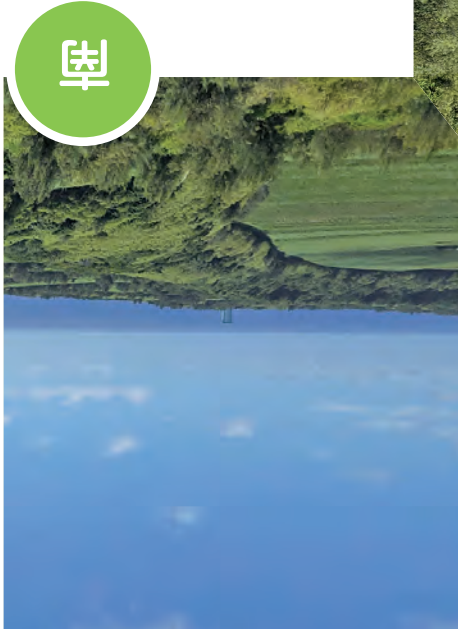




北



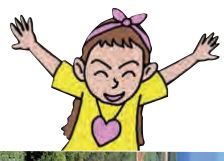
南



南

考えてみよう

- 1 ^{とうだい} 灯台から見て、^{まこうち} 字港の方と幕内の方の風景はどのようにちがうか。
- 2 港があるのはどの方向か。なぜだろうか。
- 3 住宅が集まっているのはどの^{あざ} 字だろうか。なぜだろうか。



「方位によって見える風景がずい分ちがうのね。」



その時、風がふいてサトウキビ畑がザワワと音をたてました。

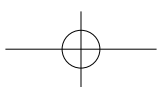
「そういえば、島にはサトウキビ畑がたくさんあるよね。」



「じゃあ、今度はサトウキビについて調べてみましょう！」



サトウキビをかじりながらおんな天狗が子どもたちを見つめています。



2 島ではたらく人

① 生産：農家の仕事



「きのうの夜“サトウキビができるまで”と書かれた表がとどいたの。」



「この表をうめるんだね。^{じえいえい のうぎょうきょうどうくみあい}JA（農業協同組合）の人や、農家の人に話を聞いてみよう。」

JAは農家の仕事を助ける仕事をしているのよ。サトウキビの育て方には、春に植えて1年で収穫^{しゅうかく}する春植え、夏に植えて1年半育てる夏植え、かり取った株^{かぶ}から育てる株出し^{かぶ}があります。

収穫^{しゅうかく}は昔はすべて手作業だったけど、今はJAが大きな機械^{きかい}（ハーベスター）でまとめてかり取って、その後大きなトラックで製糖工場^{せいとうこうじょう}に持っていくのよ。



JAの職員^{しよくいん}さん



植え付け

うねに^そ沿って、土に植え^きていく



点滴^{てんてき}かんがい

畑に^{めぐ}巡らされたホースで少しずつ水をやる



ハーベスター^{しゅうかく}で収穫

ハーベスターという機械^{しゅうかく}で一気に収穫する

草取り^{むしよ}、虫除け^{ひりょう}、肥料やり、水やり（かんがい）などに気を配って、糖度^{とうど}の高いサトウキビをできるだけたくさん収穫できるようにしています。



農家^{しゅうかく}さん

サトウキビができるまで

月	内容	調べたこと
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月	↑ 収穫 <small>しゅうかく</small>	ハーベスターでJAがかり取り、 製糖工場 <small>せいとうせいとう</small> に持っていく
3月	↓	

作業の候補

春植え

夏植え

株出しかぶ

かんがい

収穫しゅうかく

ばい土

やってみよう

- 1 サトウキビの生産について、JAの職員しょくいんや農家の人に話を聞いてみよう。
- 2 サトウキビ生産の1年を表にまとめてみよう。

プラス学習

年間を通じて、1つの畑を観察かんさつして、写真をとったり、変化へんかを記録きろくしたりしてみよう。



「収穫したサトウキビはその後どうなるの？」



「よし、製糖工場に行ってみよう！」

2人は製糖工場へ見学に行き、話を聞きました。

北大東島の製糖工場は黒糖ではなく、白糖の原料を作って、本土に出荷しているんだ。

毎年1月から3月ごろまでの製糖期には、工場の機械はずっと動いているよ。



工場の人



やってみよう

- 1 前ページの図の中の（ ）にあう言葉を書こう。
- 2 製糖工場せいとうこうじょうを見学してみよう。
- 3 過去10年分のサトウキビの収穫量しゅうかくりょうを調べて、年によって大きく変化している原因げんいんを話し合おう。



「農家はサトウキビしかつくっていないのかな。」



「カボチャをつくっているのを見たことあるよ。」

もうひとつのお話

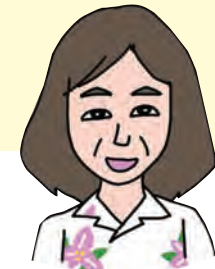


カボチャやジャガイモの畑について話を聞いてみたよ

いつもはサトウキビをつくっているけど、4年に一度くらいは畑を休ませるために、カボチャやジャガイモをつくっている農家も多いのよ。他の産地よりも早くできて美味しいので、とても喜ばれているのよ。



畑も休みが必要なんだね。



JAの職員さん

考えてみよう

- 1 大東島こくとうで黒糖をつくっていないのはなぜだろうか。
- 2 農家では他の野菜やさいや果物くだものをなぜ出荷しないのだろうか。
- 3 製糖工場から出るバガスは何に利用されているだろうか。

② 販売：お店の仕事



2人は「^{じえい}JA売店の前のベンチでひと休みしています。

「こんどはお店の仕事を調べてみようか。」

「JAの売店が一番大きいけれど、他にもお店は4つあるよね。あ、おさかな市場もあるね。」



やってみよう

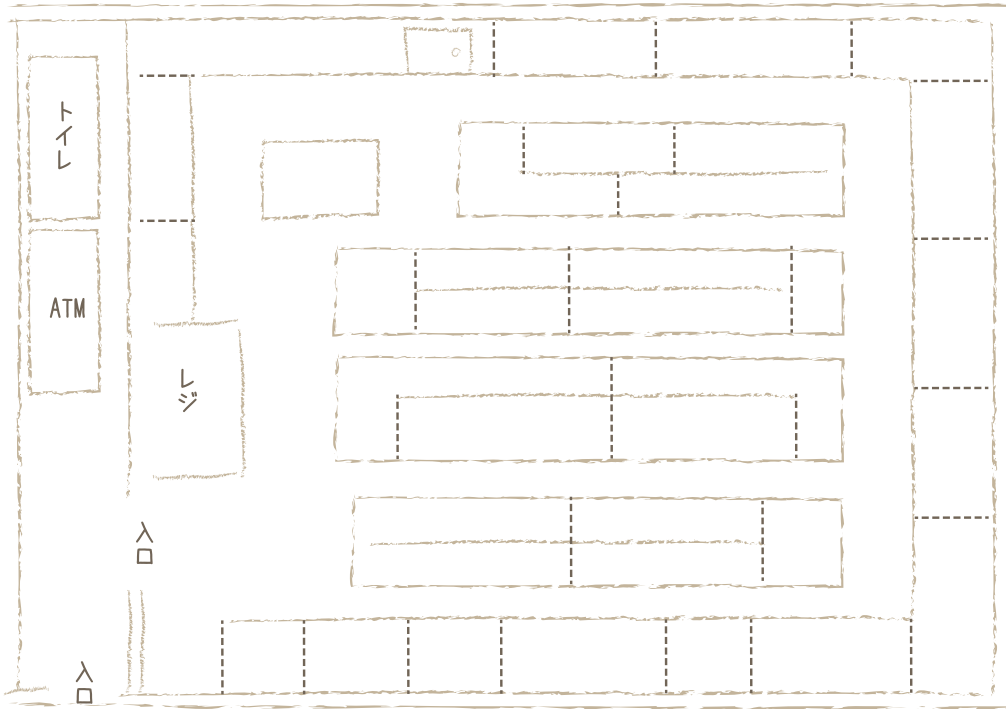
島にあるお店の場所を、白地図に記号をつかって示してみよう。

お店調べカード

しらべた日：

お店の名前：

みと
見取り図



とくちょう

くふうしていること

こまっていること

売れているもの



JA 売店の人

天気が悪くて定期船が来ない日が続くと、食料品がたりなくなってこま困ります。久しぶりに定期船が来たあとには、お店はととてもにぎわいます。パンがあつという間に売れてしまうこともあります。

やってみよう

- 1 じえい JA 売店に行って、品物がどのように並べてあるか前ページの見取り図みとに書き込もう。
- 2 お店の人の話を聞いて、「お店調べカード」にまとめてみよう。

島のお店



JA 売店



名嘉商店



浅沼商店



宮城行枝商店



大城商店



おさかな市場

考えて
みよう

- ① スーパーマーケットやコンビニエンスストアが島にないのはなぜだろうか。
- ② インターネットでの買い物に向かない商品は何だろう。

もうひとつのお話

那覇にある本屋さん(リブレットウボウブックセンター)が、毎年1回、北大東島で2日間の本屋「図書フェア」を行っています。



「島のお店には本を売っている店がなかったね。本はインターネットで買うことが多いよね。」



「年に一度の図書フェアで買うのも楽しみだ。」

2003年から続けている^{いどうほんや}移動本屋です。「本をさがす楽しさを伝えたい」という思いで、楽しみにしてくれている子どもたちの顔を思いうかべながら 持っていく本を選んでいきます。



本屋店長さん

3 島の安全を守る人



「島の仕事には他にどんなものがあるだろう。」



「学校の先生や保育士さん。床屋さん。お医者さん…。」



「ウミンチュもいるね。工事をする人もいる。こんどは、島の安全を守っている駐在さんや消防の仕事について調べてみたいな。」

1 駐在さんの仕事



事故や事件は少ないけれど、村のみなさんの安全のために、毎日気をぬかずにパトロールをします。夏には、水難事故が起きないように、呼びかけをします。

島でただ一つしかない信号機の管理も駐在所の仕事です。



駐在さん



「駐在所とは警察官が住みながら地域の安全を守るところなんだ。」



パトロール



くわこうけいび
空港警備

過去5年間の島内の交通事故件数

年度 件数	2015	2016	2017	2018	2019

ちゅうざい
駐在さんの1日

しらべた日：

駐在さんの名前と役職：
やくしよく

時間	毎日のしごと

季節や行事によって特別にすること

村の安全のために特に気をつけていること

やってみよう

- 1 駐在所ちゅうざいしよに行って、交通事故件数こうつうじこけんすうを調べてみよう。
- 2 駐在さんちゅうざいに話を聞いて、「駐在さんの1日」カードにまとめてみよう。

プラス
学習

かこ 過去に島で起こった大きな事件じけんや事故じこについて調べてみよう。

交通事故をふせぐくふう

ちゅうざいしょ 駐在所を出た2人は、島で1つだけの信号機しんごうきを見上げました。



「駐在さんは、信号機の管理かんりもしてるんだね。」



「島ではあんまり交通事故はおきないけど、道路を歩くときは自分たちで気をつけないといけないね。気をつけて見ると、道路にはいろいろなものがあるよね。」



せいげん おうだん ひょうしき
速度制限・横断注意の標識



止まれの標識

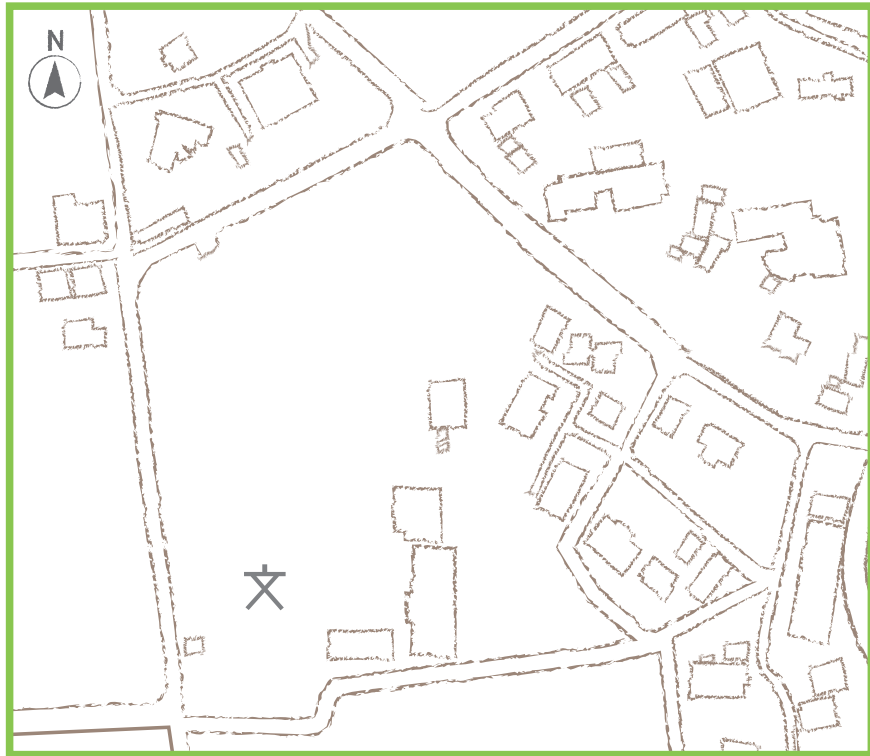


カーブミラー

やってみよう

- ① 学校のまわりで、信号機や道路標識どうろひょうしきなど、交通安全にどんなくふうがあるかさがしてみよう。
- ② 交通安全のくふうを右ページの白地図に書きこんでみよう。
- ③ 交通安全のくふうがないと、どんな危険きけんがあるのかを話し合ってみよう。

「いろいろな交通安全のくふうがあるのね。」



もうひとつのお話



「島にはどうして1つしか信号機しんごうきがないのかな。」



「学校のすぐそばにしかないよね。」



「信号機がなくてもあまりこま困らないような気がするけど……。」



交通教育のための信号機



島では、信号機がひつよう必要なほど、車は多くないけれど、子どもたちが都会へ行ってこまも困らないように、教育のための信号機が置いてあるんだよ。

② しょうぼうだん 消防団の仕事



「火事がおきたら119番っていうのは知っているけど、電話をするとどこに通じるのかな。」



「役場の前に消防車しょうぼうしゃがとまっているのを見たことがある。役場に行けばわかるかな。」

役場に行くと、また都合よくユウジさんが現あらわれました。



「ぼくも消防団しょうぼうだんに入っているから、案内してあげるよ。」

もしかしてユウジさん、おんな天狗てんぐにあやつられているのかな？



消防団の人

北大東村には消防本部や消防署しょうぼうしょはないけれど、役場の職員しよくいんが中心になって、消防団を結成しているよ。火事や急病人がでたときには、消防車や救急車きゅうきゅうでかけつけることになっているんだ。いまは消防車2台、救急車1台がいつも待機たいきしているよ。

🚒 過去5年間の島内の火災発生件数 🚒

年度	2015	2016	2017	2018	2019
件数					

🚑 過去5年間の島内の救急車の出動件数 🚑

年度	2015	2016	2017	2018	2019
件数					

やってみよう

- 1 役場に行って、消防団^{しょうぼうだん}について聞いてみよう。
- 2 火災^{かさい}の発生件数^{けんすう}や救急車^{きゅうきゅうしゃ}の出動件数を調べよう。
- 3 消防団の車両^{せうび}や設備を見学して、聞いたことや見たことをまとめよう。

しょうぼうしゃ
消防車のしくみ



消防車正面



スイッチ



ほうすいじゅう
放水銃



ほうすいこう そうさばん
放水ホース操作盤



放水ホース



ふくそう
服装

緊急のときの119番



「救急車は大きなけがや病気の時に診療所に運んでくれるよね。」



「手術が必要な時とか、診療所では十分に対応できない場合、沖縄本島まで急いで運ぶことになるんだ。その時は自衛隊にヘリコプターを飛ばしてくれってたのむんだよ。」

緊急事態は待ってくれない。夜中でも自衛隊のヘリコプターは

飛んできてくれる。天気が悪い時には、ちゃんと来てくれるか、無事についてくれるか、とても心配になるよ。最近まで夜間の緊急搬送では、消防団員がランタンを滑走路において、



ヘリコプターを誘導したんだ。今は空港に夜間照明ができて、安心だよ。

過去5年間の島内の救急搬送件数

年度	2015	2016	2017	2018	2019
件数					

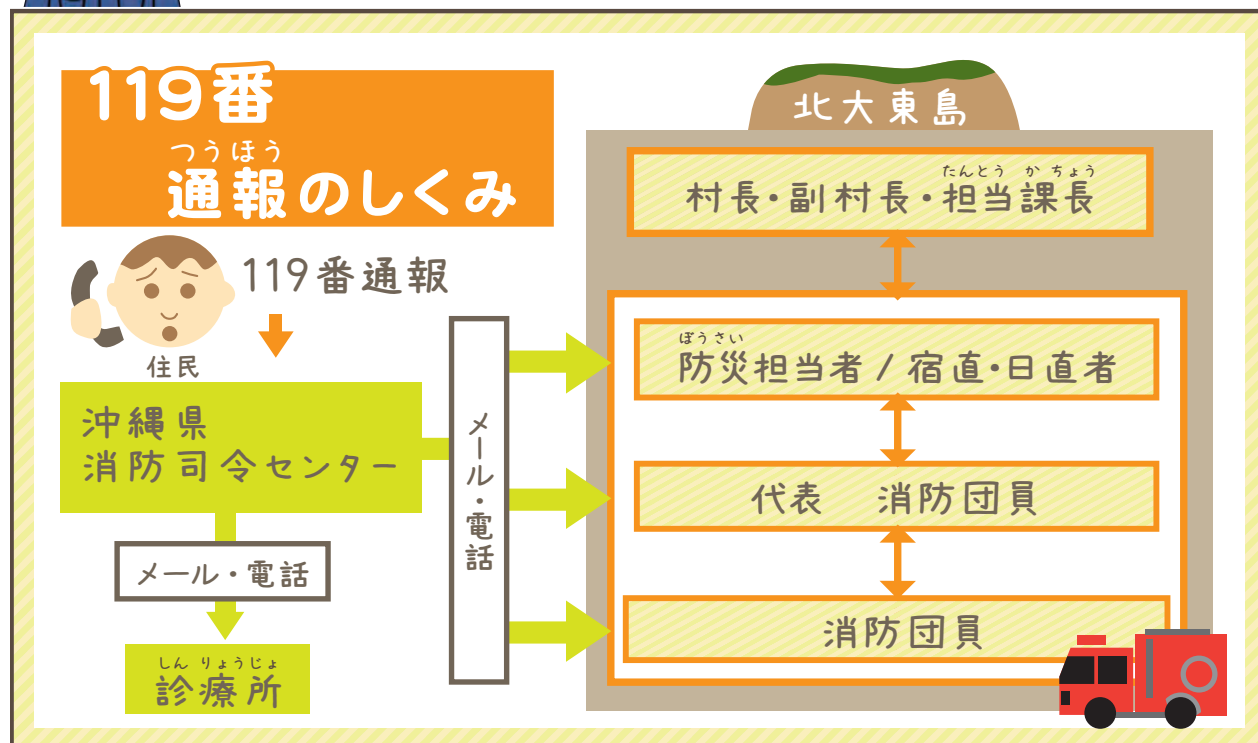


診療所



緊急搬送の自衛隊機

「消防団の団員は、ふだんは別の仕事をしているけど、非常時には必ずかけつけるんだ。夜の間は交代で当直をつとめたり、専用の携帯電話を持ったりして、緊急の出動に対応できるようにしているんだ。119番に通報したら、どうやって連絡が回るか知っているのと役に立つよ。」



やってみよう

緊急搬送について

- ① 消防団の人に聞いてみよう。
- ② 件数について調べよう。
- ③ 聞いたことや見たことをまとめよう。



考えてみよう

- ① 家の近くで、消防車が利用できる消火栓がどこにあるかを調べて、火事の場合にはどうすればよいか考えよう。
- ② 空港ができる前、急病の患者が出た時はどうしていたのだろう。

4 島のうつりかわり

① 古い道具から考える

きのうの夜、2人とも赤瓦あかがわらの大きな建物の夢ゆめをみました。
 そんなところは民俗資料館みんぞくしりょうかんしかありません。2人は民俗資料館にやっ
 てきました。やはりそこには都合よくユウジさんがいました。



「そんな気がして来てみたけど、やっぱり。
 こんどは昔のことを調べるのかな。用事ようじでぼくは
 出かけるけど、自由に見て行ってよ。」



「昔の道具がいっぱい
 ある。」



「何に使っていた
 のかな。」

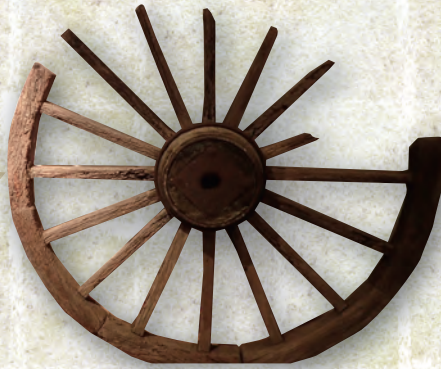


仕事の 道具

しよいこ



牛車の
しゃりん
車輪



海めがね



サバニの
オール



「みんぞく しりょうかん民俗資料館は
じんざい北大東村人材交流センターの中にあるよ。」

やってみよう

- 1 みんぞく しりょうかん民俗資料館を見学してみよう。
- 2 昔の道具がなにに使われていたか、なぜ使われなくなったのかを、大人に聞いたり、話し合ったりしよう。

② 古い地図からわかること

昔の道具を見ていたタケルが、くるくると巻かれた紙を見つけました。その紙をひろげてみると、中からひらひらと小さな紙が落ちました。



「なんの数字かしら。」

2690

もどってきたユウジさんに聞いてみました。



北大東村役場

「2690」か…。なんかみたことあるな。ああ、そうだ！昔、島に一番たくさん人がいたときの人口だよ。人口のことを調べるなら役場にすればいいよ。



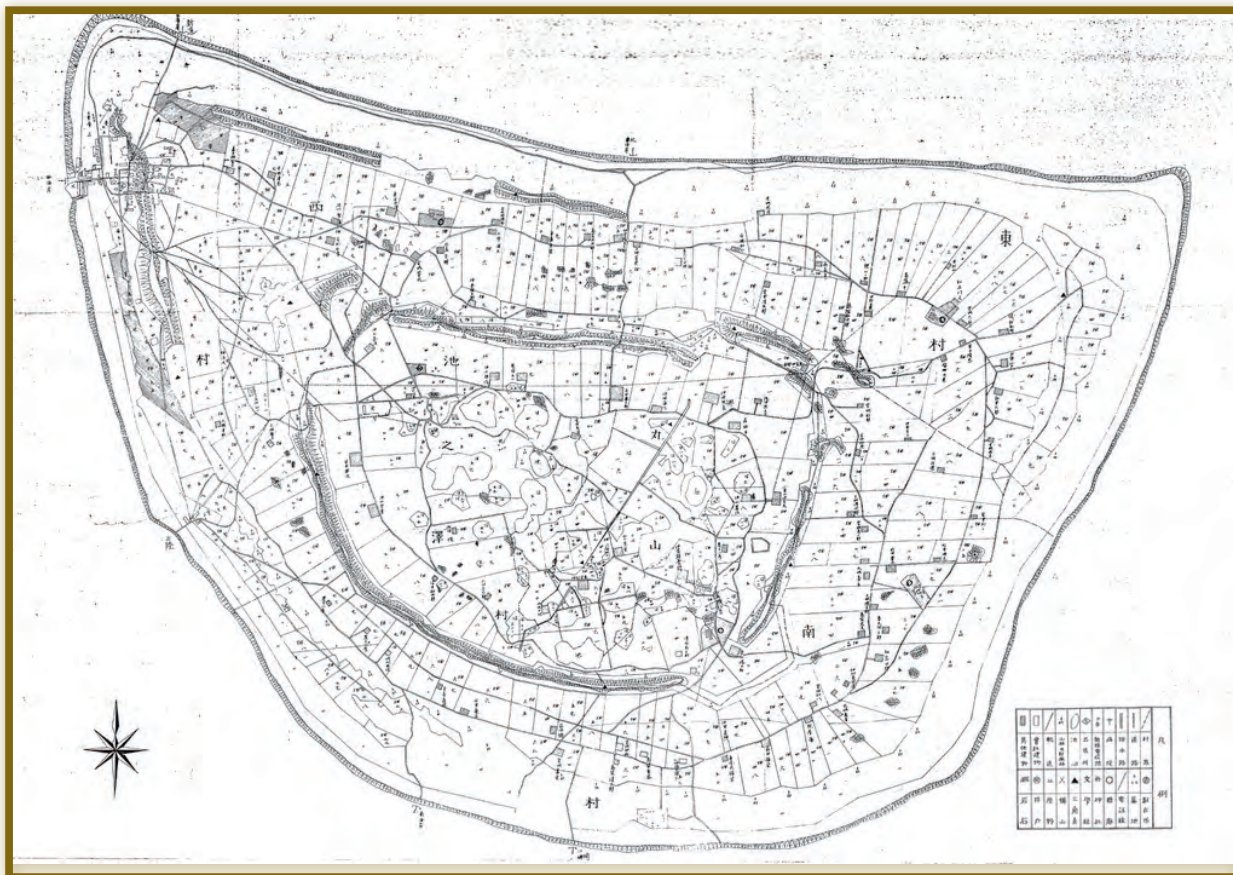
過去10年間の島内の人口

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
人口										

やってみよう

- ① 島の人口をできるだけさかのぼって調べよう。
- ② 調べた人口を棒グラフにしてみよう。
- ③ 「2,690人」にくらべて、いまの人口が少ないのはなぜかを話し合おう。
- ④ 最近の人口はふえているか、へっているか、それはなぜかを話し合おう。

ひろげた紙は古そうな島の地図でした。



「数字はわかったけど、この古い地図はいつのものだろう。」



「ずいぶん昔のものみたいだよね〜。」



「ユウジさんが昔のことは、ノボルおじいに聞くといいよって言ってたね。ノボルおじいの家に行ってみよう。」

2人はノボルおじいの家へやって来ました。ノボルおじいは「よく来たね、どうしたの?」とむかえてくれました。

2人はノボルおじいに古い地図を見せました。



ノボルおじい

「おっ、これは古い地図だね。今から80年以上前の北大東島の地図だ。おじいが子どものころのものだね。今とはずいぶんちがうよね。2人はどんなことに気づいたかな。」



「最初に気づいたのは空港がないこと。でも、学校は同じ場所にあるなって思った。あと、西港の近くにたくさん建物があることに気づいたかな。」



「今とはちがう地名が書かれている。『池之澤村』^{いけのさわむら}とか、『西村』とか。西港ははっきり書かれているけど、北港や江崎港^{えざき}ははっきり書いてないな。」



「いろいろとおもしろいことに気づいたね。まずは、地名のことから話そうか。島に人が住みはじめてからのうつり変わりがよくわかるから、古い写真を集めた写真集を見ながら話そう。」

やってみよう

- ① 古い地図を今の地図や航空写真^{こうくうしゃしん}とくらべてみよう。
- ② 今でも変わっていないところと大きく変わっているところをまとめてみよう。

ノボルおじいのはなし その①

サトウキビと^{りんこうせき}燐鉱石

「島の地名はうつり
変わっているんだよ。」



南大東島・北大東島は長い間、無人島でした。人が住みはじめたのは今から約120年前(1900年)のことです。先に南大東島でサトウキビ畑がつくられて、10年おくってから北大東島で畑がつけられました。

さとうきびの畑づくり(開拓)は、「池之澤」「丸山」からはじまって、「西村」の方にひろがっていきました。

そんな中、1918年から西港の近くで燐鉱石がとれるようになり、たくさんの方が住むようになりました。燐鉱石は化学肥料の原料です。

島を運営する会社の社員が住む「燐鉱山」と、鉱夫が住む「大正村」「下坂村」という地区ができました。そして、畑づくりも北や東や南に広がって、「東村」と「南村」もできました。この古い地図はそのころの島の様子を表しています。

その後、今から約75年前(1946年)に北大東村ができると、「中之区」(池之澤村と丸山)、「北区」(西村と東村)、「南区」(南村)、「西区」(燐鉱山と下坂村)、「大正区」の5区になりました。現在は「港」「中野」「南」の3つの字になっています。



開拓当初の風景



戦前の燐鉱山

考えて
みよう

畑づくりが「池之澤」からはじまったのはなぜだろうか。

ノボルおじいのはなし その② 「島の大事な出入り口、港の移り変わりについて話しておこう。」



大東島のまわりは、けわしい岩場ばかりなので、船がつけられる場所がありません。最初に島に上陸した人は苦勞したそうです。最初に島に上がった場所がいまの上陸公園です。

最初にできた港は西港で、ちょうど隣鉦山ができた約110年前(1918年)のことです。西港は風下になって強い風があたらないことが多いからです。それ以来、西港は島の入り口になって、たくさんの人が出入りし、荷物を出し入れしてきました。

戦前までは上陸公園の場所は、砂糖のつみ出しに利用されていました。他の港ができたのはかなり後のことで、江崎港や北港は今から40～50年前につくられました。

島に本格的な空港ができたのも同じころで、約45年前(昭和51年、1976年)のことです。最初の飛行機がやってきた時は、村民みんなで喜びました。

大東島の港は、本島の港とはちがって、船をつけることができません。人も荷物も、漁船までもクレーンで上げ下ろしをしてきました。平成31年(2019年)に漁港が開港して、漁船はクレーンなしで出入りできるようになり、南大東島の漁港との間で、船の行き来もできるようになりました。



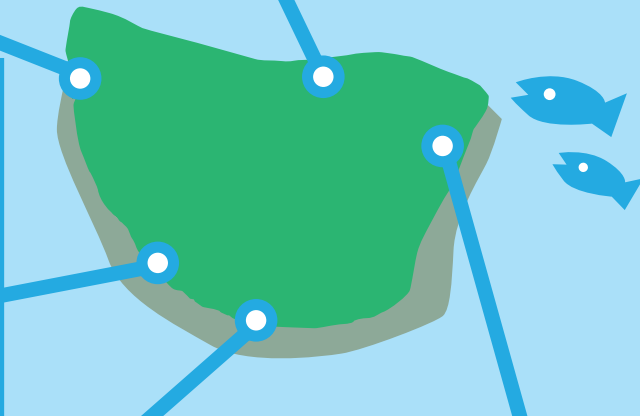
戦前の西港(完成したころ)



砂糖をつみ出した戦前の上陸港



港かく にんの場所を確認してみよう



考えて
みよう

- 1 西港・北港・江崎港の中で一番よく使う港はどれだろう。それはなぜだろうか。
- 2 他の港はどんな時に使うのだろう。それはなぜだろうか。

5 水はどこから・ごみはどこへ

① けんこう 健康を守る飲み水



「ああ。今年は雨がなかなかふらなくて心配しんぱいでおじゃる。干ばつかんが起きそうだし、とても強い台風もやってきそうなのじゃ。子どもたちの島たんけんはだいじょうぶかな？」



「最近、雨がふらないね。大人はみんなサトウキビが育つか心配しているよ。」



「ちょっと不思議ふしぎなんだけど、雨がふらないのに、水道の水がなくならないのはどうしてだろう。」



「それはカイスイタンスイカのおかげらしいよ。でもくわしくは知らないんだ。次の島たんけんのテーマは“水はどこから”にしよう。」

こんな時にも、前向きな子どもたちに、おんな天狗てんぐはうれしくなりました。さっそく車に乗っていたユウジさんをあやつって、子どもたちの方に向かわせます。



「お、海水淡水化かいすいたんすいかを調べるの？ ちょうどそっちの方に行くから乗っていく？」

やってみよう

- ① 海水淡水化施設しせつを見学しよう。
- ② 海水を真水まみずに変えるしくみについてまとめよう。

淡水化施設のしくみ



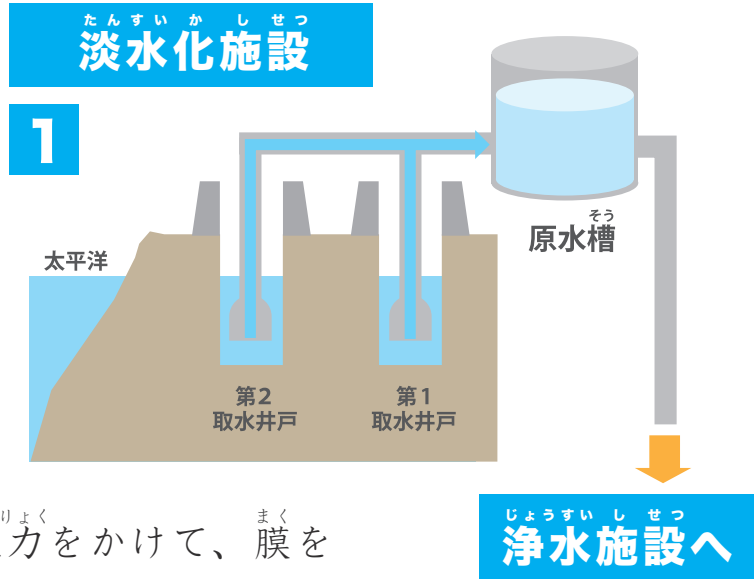
「どうやって海水が飲み水になるんだろう。」



「深い井戸をほって海水を吸い上げるのね。」



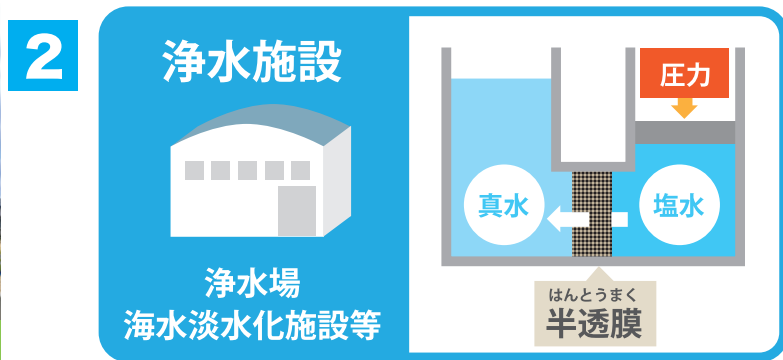
取水ポンプ



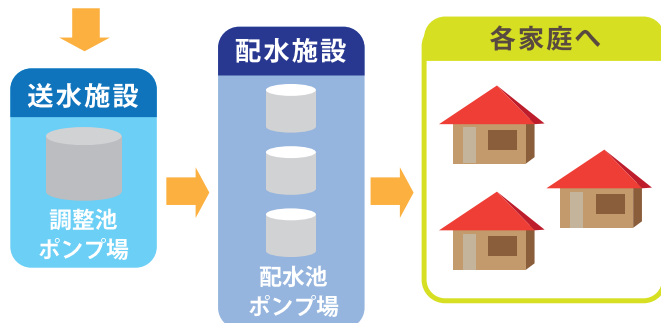
「海水(塩水)に圧力をかけて、膜を通すことで真水を取りだしているんだ。」



海水淡水化施設



「水を作るのは
沖縄県の仕事だよ。」



「水を配るのは村の仕事なんだ。」



「島の水が海から来てるってことがわかったね。」



「海の水はいくらでもあるから、安心だね。でも、海水淡水化施設かいすいたんすいかしせつができる前はどうかっただろう。」



「昔のことは…。ノボルおじいだ。」



「昔は、水はどこから来たかって？前は、それぞれの家に水タンクがあって、屋根の雨水をためていたね。3つの字ごとに共同の水タンクもあった。字南や字港のタンクは今でも残っているよ。」



使っていない家庭の水タンク



字南の水タンク

やってみよう

- 1 家族に水の苦くろ勞話を聞いてみよう。
- 2 共同の水タンクがどこにあるかを確たしかめよう。

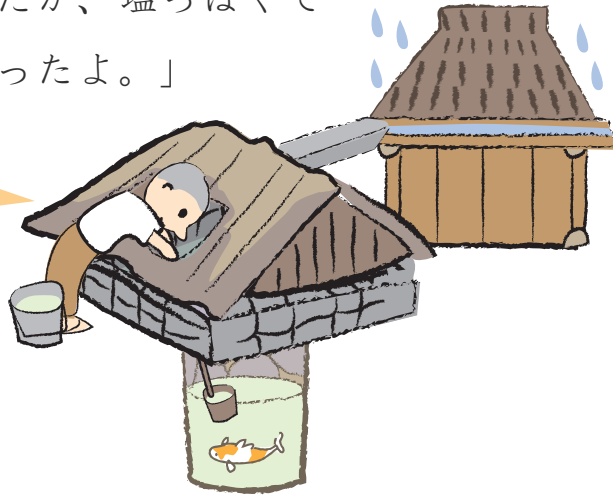


字港の水タンク



「もっと前は、かやぶき屋根にふった水を集めて、ためていたから少し色がついていた。おじいはまちがえてお茶っばをいれずにお客さんに出しておこられたことがあったよ。水が安全か^{たし}を確認するために、コイをはなしていた家もあった。井戸^{いど}もあったが、塩っぽくて飲み水には向かなかったよ。」

かやぶき屋根を通った雨水が樋^{とい}を流れて井戸にたまるよ



「今は海から、昔は空からってことね。」



「水がどこから来たかはわかってきたね。もうひとつふしぎなのは、ごみはどこに行くんだろうってこと。」



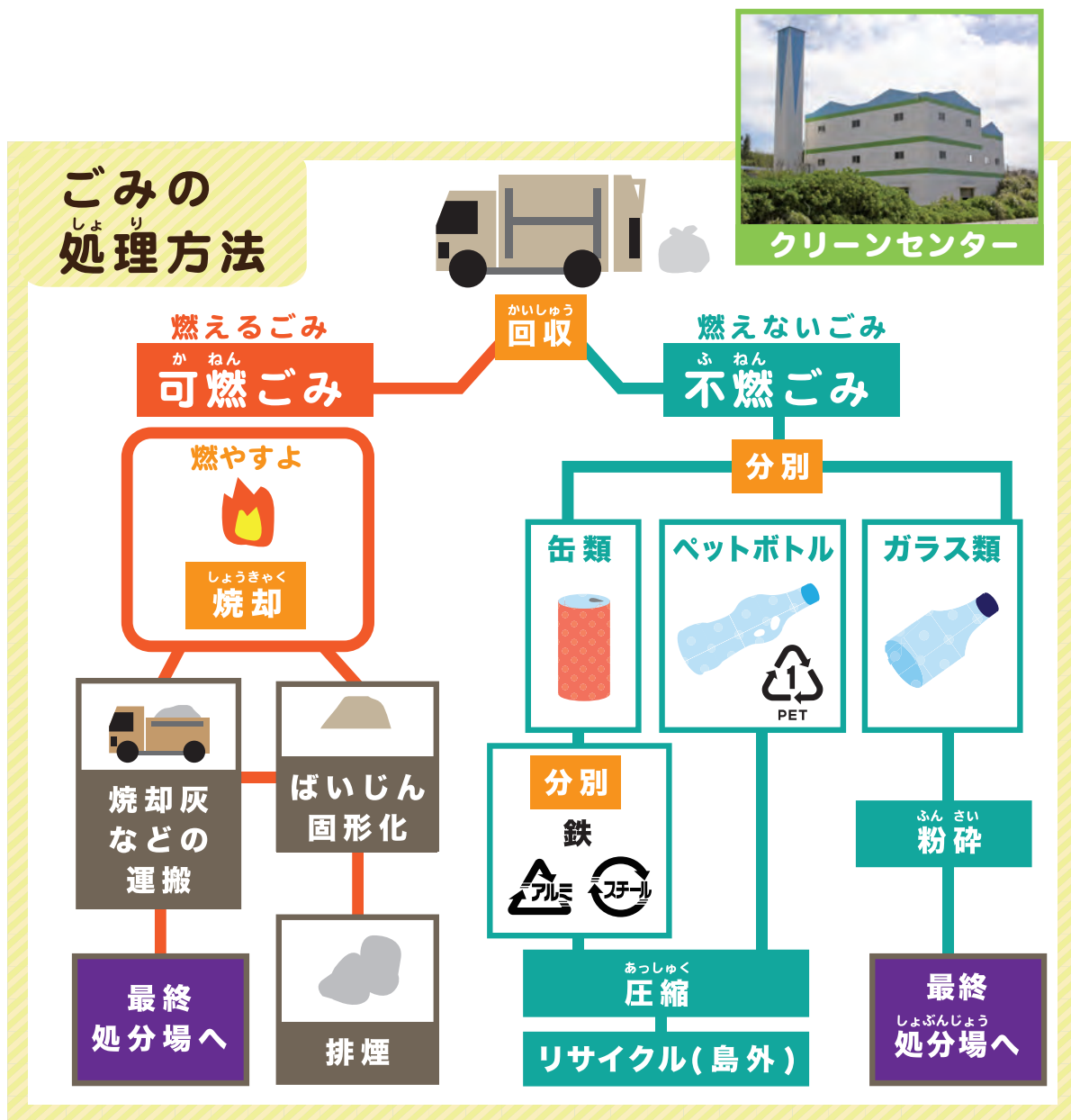
「そうね。小さな島だからすぐごみだらけになるよね。」



「今がどうなっているかは調べるとして、ノボルおじい、昔はどうしていたの？」



「今の施設^{しせつ}ができる前は、何でも土の中にうめていたんだ。黒部岬^{くろぶみさき}のそばにあった^{りんこうざん}燐鉷山のあとの大穴^{おおあな}がいっぱいになってしまって、今の施設をつくることになったんだよ。」



処理をしても残ってしまったごみを埋めたて
ます。その時のごみから出るよごれた水が地下
にしみこまないように処理します。

※この他、^{はいしゃ}廃車などの大型の^{はいきぶつ}廃棄物は島外に持
ち出されて処理されます。

- 考えてみよう**
- ① 島のごみを減らすためにどんなことができるだろうか。
 - ② よごれた水はどこに行くのだろうか。

6 きびしい自然とともに

① 自然災害を知る

おんな天狗てんぐが心配していたとおり、今年は台風ひがいの被害
が出ました。

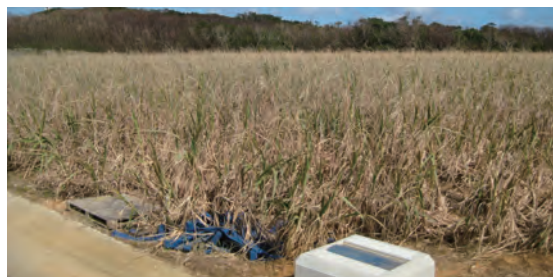
「あの子どもたちはどうしているかな。こんな時こそ、元気に島たんけんを続けてくれるとよいのでおじゃるが…。」

「すごい風だったよね。家の木がおれたり、トタンが飛んだりしたよ。」

「大人たちは、潮しほをかぶったサトウキビが心配だって言ってるよ。畑かは枯れて赤くなってるよね。新しい葉が早くのびるといいけれど。」



台風で路面がはがれた道路



台風で枯れたサトウキビ畑

「海岸そ沿いでは道路がはがれたって言ってた。やっぱり、大東島の台風はすごいよね。」

おんな天狗てんぐの指示でアホウは『災害調ベカード』さいがいを2人にとどけました。

「今度は、役場で台風とか地震じしんとか、自然さいがいの災害について調べてみよう。」



やってみよう

- 1 これまでに島で起こった災害さいがいの被害ひがいについて調べよう。
- 2 調べたことを「災害調べカード」にまとめよう。

災害調べカード

災害が発生した年月日：

災害の名称：

災害の特徴とくちょう（風速・震度しんどなど）

住宅や施設の被害ひがい

農業の被害ひがい

図や写真（天気図・災害写真など）

② 防災のしくみ

「役場には災害の情報をすばやく伝えるために防災無線のシステムがあるんだ。全島で10か所にスピーカーがあるよ。国からの緊急情報を伝える仕組み(ジェアラート)も導入されているよ。」*設置予定を含む。



「この間の台風の時にも放送されていたよ。」



役場にある防災無線システム



防災無線の子局スピーカー



「自分がどこに逃げたらいいか、救助のための設備がどこにあるかを知っていることが大事だね。」

やってみよう

- ① 役場に行って、防災対策について聞いてみよう。
- ② 役場にある防災のための設備を見学しよう。
- ③ 防災マップで自宅の近くの避難場所や防災施設について確認しよう。

ぼうさい 防災マップ

村のホームページでもっとくわしい
防災マップをダウンロードできるよ。



北大東村 防災 MAP

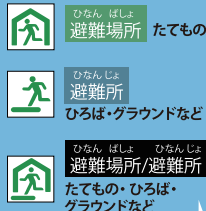
地図の読み方

避難する場所の種類



場所のなまえ

避難する場所の種類



避難者の生命を保護するための場所
自宅で生活ができなくなった人たちが
しばらく生活する場所

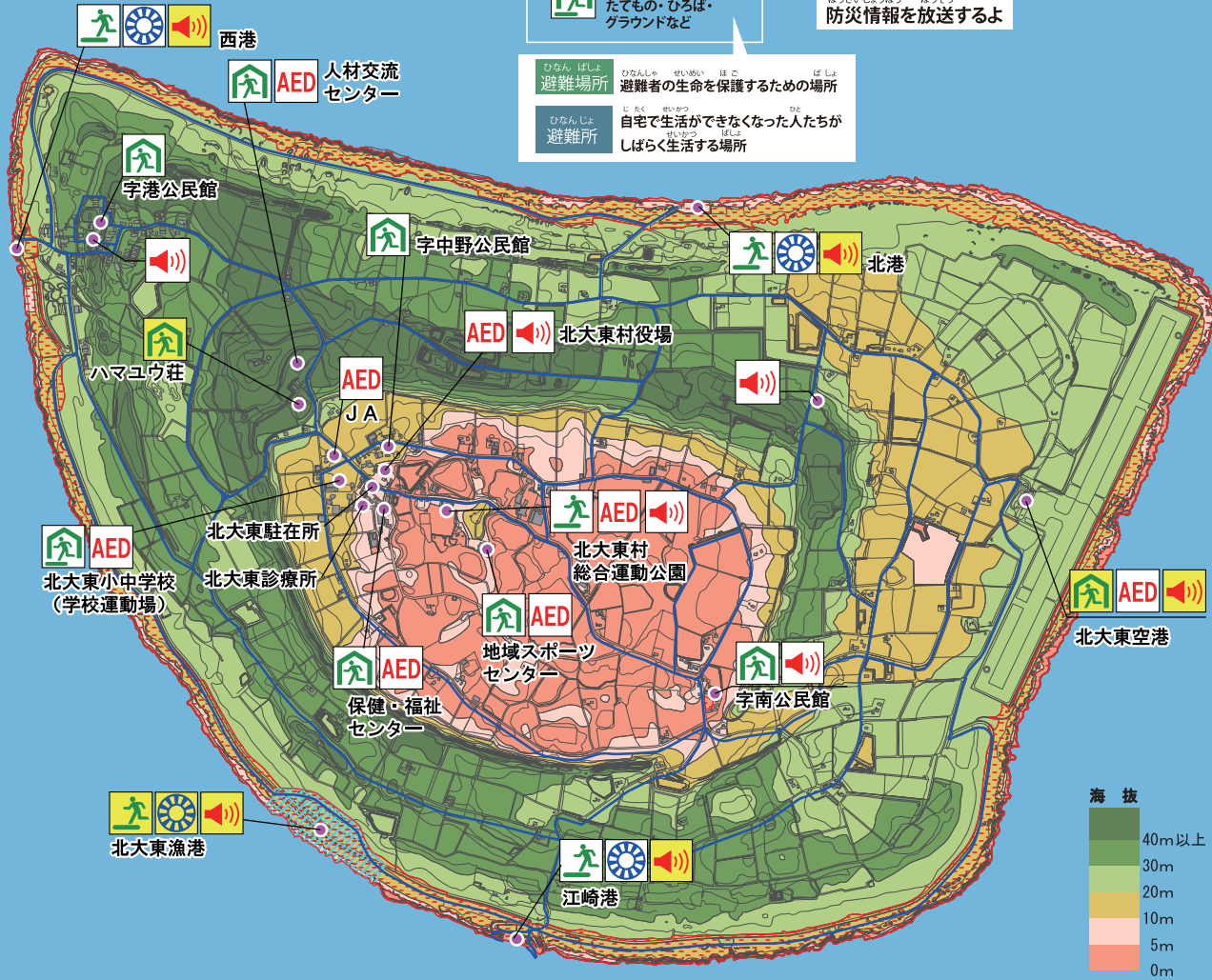
設備品など



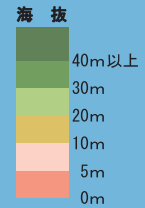
防災情報を放送するよ

心臓が停止して倒れた
人の命を救う道具だよ

水の災害の時の
道具がはいているよ



- 主要道路(県道、村道等)
- 指定済み
- 指定予定
- 設置済み
- 設置予定
- <災害危険箇所>
- 浸水危険箇所 (海岸海拔0-20m)



7 島をひらいた人・島の文化



「ノボルおじいの話はおもしろかったよね。他にも、わたしたちが知らない昔のことが、きっとあるよね。」

① 先人に出会う時間旅行



「前にも行った民俗資料館みんぞく しりょうかんにもう一度行ってみよう。」

2人は、民俗資料館みんぞく しりょうかんの前に来ましたが、トビラは閉しまっていて中に入れません。横にはとても大きな古い金庫がデーンと置いてありました。



その時、バサッという音がしました。ふり返ると、そこに羽のある女の人てんぐが立っていました。



「お、おんな天狗てんぐ!?!」

そろそろ会ってもよいころだと思って、やってきたでおじゃる。いろんなことを調べて、おまえたち、ずいぶん自分で考えることができるようになったでおじゃるな。



「それは、おんな天狗てんぐが助けてくれたから。」





「子どもはけんそんするものではない。今日はな
卒業祝そつぎょういわいと言っいてはなんだが、ちょっと旅行に連れ
て行ってやる。」



「卒業そつぎょうって？」



「まあ、それはおいておいて、ついてくるでおじゃ
るか？」



「もちろん!!」

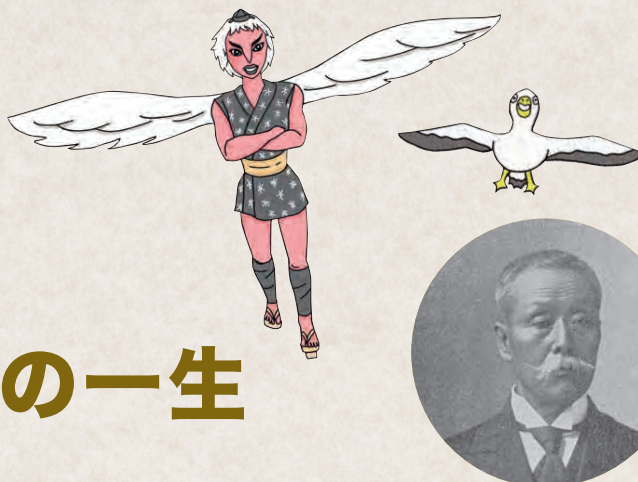
おんな天狗てんぐがクバのうちわをブワツつとふると、古い金庫きんこが開いた。
その向こうにずっと黒いトンネルつづが続いている。



時間旅行 ①

かいたくしゃ
開拓者

たまおきはん えもん
玉置半右衛門の一生



トンネルをぬけると、2人はおんな天狗てんぐといっしょに宙ちゆうにうかんでいました。下には北大東島よりも大きな島が見えます。おりていくと、新しい建物たてもものを建てている若い大工だいくが見えてきました。



「ここは、今から160年ほど前の小笠原おがさわらの島。今は東京都の一部じゃな。あれは24才の玉置半右衛門たまおきはん えもんだ。大工として小笠原開拓おがさわら かいたくに参加さんかしているのでおじゃる。

小笠原では、大工だけではなくて、農地の開墾かいこんや生活物資せいかつぶっしの販売など、手広くやっていたようだ。半右衛門は、この後、伊豆諸島の鳥島いずしょとう とりしまで、アホウドリから羽毛うもうをとって大もうけするのでおじゃる。では、28年後の鳥島へ飛とぼう。」

南・北大東島の開拓主だね。



「たくさんのアホウドリを棒ぼうでたたいてつかまえている。こうして羽毛うもうをとっていたのね。」



「アホウドリの羽毛うもうは羽毛布団ぶとんの材料ざいりょうとして高値たかねで外国に売られていたのでおじゃる。こうして、アホウドリはととも減へってしまって、いまでは大切に保護ほごされているのじゃ。次は、10年後の帆船回洋丸はんせんの上じゃ。60才になった半右衛門が見えるぞ。」



「鳥島の資源しげんが少なくなると、半右衛門はんえもんは次に開拓かいたくする島をさがして、自分の船で、ハワイや沖縄などを旅した。その時、大東島のことを知ったということでおじゃる。

次は2年後(1900年)の大東島じゃ。大東島の土地を国から借りると、故郷八丈島こきょうはちじょうじまなどで移住者いじゆえやを募集ほしゅうして、24人の開拓団かいたくだんを送りこんだのでおじゃる。」



「半右衛門さんが開拓団の団長じゃないのね。」



「もう62才だったからな。信頼しんらいできる依岡省三よりおかしょうぞうという冒険家ぼうけんかにまかせたんじゃ。半右衛門は72才で亡くなるまで、大東島の開拓に取り組んだのでおじゃる。」



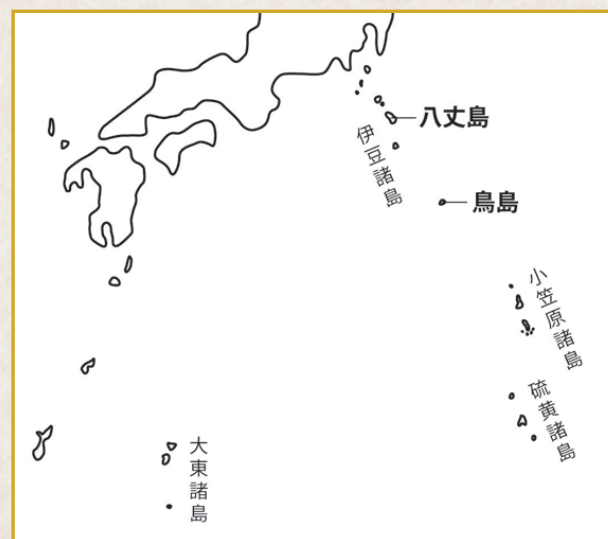
「半右衛門さんのぼうけん人生がぼくたちのいる島につながったんだね。」



「よし。ではもう1人の開拓主かいたくぬしに会いに行くでおじゃる。」

やってみよう

- ① 玉置半右衛門のことをもっと調べてみよう。
- ② 玉置半右衛門に関する出来事できごとを年表にまとめてみよう。



玉置半右衛門に関する島々の位置

時間旅行 ②

かいたくしゃ
開拓者

つねとうのりたか
恒藤規隆の一生



「ここは今から230年ほど前の、宮崎県の油津港の近くだ。あそこで、地層を熱心に調べているのが、23才の恒藤規隆でおじゃる。後に、無人島だったラサ島、いまの沖大東島で、燐鉍山をはじめた、もう1人の開拓主じゃ。」



「沖大東島は、北大東村のもう1つの島だよ。今は無人島だって聞いているよ。」



「この場面は規隆が国内ではじめての燐鉍石を発見したところじゃ。規隆は^{おおいた}大分県出身で^{くろう}苦勞して勉強して、いまの東京大学農学部に入った秀才。国の役所に入って、^{せんもんか}専門家として燐鉍石がとれる場所を^{ちようさ}調査して国内初の^{のうがくはくし}農学博士になったのでおじゃる。国の^{ちようさじよ}調査所が^{はいし}廃止されて^{むしょく}無職になっても、自分のお金で燐鉍石をさが探しつつけたんじゃ。」

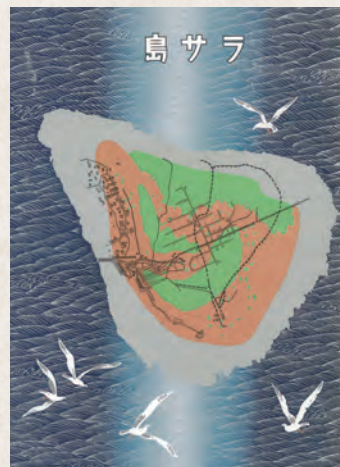
次は12年後の35才のころに飛ぼう。

玉置半右衛門がラサ島を調査した時に、^{さんか}参加した規隆の部下が持ち帰った燐鉍石の^{ひょうほん}標本をながめているところじゃ。

とてもよい燐鉍石がとれそうだと大^{よろこ}喜びしておる。」



「半右衛門とも関係があったんだね。」



ラサ島 (沖大東島)



「ラサ島の権利を半右衛門と争ったこともある。
結局、規隆が権利を勝ちとったのでおじゃる。5年
後のラサ島へ飛ぶでおじゃる。40才の規隆がラサ島
で開発した燐鉍山をながめているのが見えるぞ。」



「とうとう努力が実ったんだね。」



「規隆は社長として、燐鉍山の開発に力をつくした
のでおじゃる。第一次世界大戦で輸入の燐鉍石が足り
なくなった時に注目されて、大きくもうけることができた
のじゃ。じゃが、業績不振で13年後には鉍山が閉鎖さ
れ、社長もやめることになるのでおじゃる。」



「波乱万丈っていうんだっけ。すごい人生だね。」



「この後も、与論島や波照間島で燐鉍山を開発している。
81才で亡くなるまで、燐鉍石にささげた人生だったので
おじゃる。」

おんな天狗は、2人を見つめて言いました。

2人とも、少しつかれたかな？ 時間旅行はこれで終
わりじゃ。2人はよくついてきた。島たんけんも終わ
りに近づいた。もどれば、わしのことは忘れてしまうが、
学んだことは忘れないぞ。あばよーい。



やってみよう

- ① 恒藤規隆のことをもっと調べてみよう。
- ② 出来事を年表にまとめてよう。
- ③ ラサ島（沖大東島）がこのあとどうなったか調べてみよう。

② 島の伝統文化を考える

今日は、島のお祭り・大東宮祭の日。



「民俗資料館はおもしろかったね。玉置半右衛門さんのこととか、とてもよくわかったわ。」



「ほんとうに見てきたようにわかったよ。恒藤規隆さんやラサ島のこともはじめて知った。」



「毎年見るお祭りだけど。今年はなんだかちがう感じがする。」



「そうだね。いろいろと島たんけんをしてきて、八丈島と沖縄がまじっている理由がわかってきたからね。」



大東宮祭（9月）



余興の大東太鼓



おきなわずもろ
沖縄角力



えどずもろ
江戸相撲

やってみよう

- ① 上の写真は、八丈島、沖縄のどちらに関係があるかを話し合おう。
- ② ほかに、八丈島の文化や沖縄の文化がどんな形で残っているか、さがしてみよう。

島の料理



大東寿司



やぎ料理

もうひとつのお話



「大東宮祭の他にも大きい
のから、小さいのまでいろ
んなお祭りがあるよね。」



「それから、スポーツ
とか、いろんな行事もあ
る。」



「毎年、いつどこで、ど
んな行事やお祭りがあるか
をまとめたカレンダーをつ
くるのはどうかな。」



金刀比羅宮祭 (10月)



秋葉宮祭 (11月)



玉置翁記念碑祭 (11月)



南北親善競技大会 (6月)

8 島のみりよくづくり

① 特産品ができるまで



「島のたんけんで、いろんなことを調べてきたよね。」



「ほんとに面白かった。2人だけでよくできたよね。だれかに助けてもらったような気がするけど。」



「助けてもらったじゃないか。ユウジさんに、ノボルおじい。それから島のたくさんの人。」



「ちょっといそがしくなってきたし、島たんけんはそろそろひとやすみしてもいいかな。」



「じゃあ。もうひとがんばり。昔のことは調べたから、最後は、未来のことを調べようか。」



「未来のこと?」



「これからの島のためにどんな仕事をしているか、できるかってこと。ユウジさんに相談してみよう。」

未来のための仕事か～。平成31年(2019年)に漁港が開港して、チャンスが広がってきているって、みんな考えてるよ。2つのことを調べてみたらどうかな。1つは特産品づくり。もう1つは、文化財をいかした島づくりだ。



やってみよう

- ① 島の特産品にはどんなものがあるを調べて、素材ごとに分けてまとめてみよう。
- ② 月桃工場など、特産品づくりの施設を見学して、作り方や工夫していることをまとめてみよう。

考えてみよう

- ① 水産物の特産品が少ないのはなぜだろう。
- ② 水産物でどんな特産品をつくとよいだろうか。

「特産品づくりは、島ならではの^{そざい}素材を生かして新しい商品をつくる仕事だよ。^{げっとう}月桃・ジャガイモ・カボチャなどいろんな^{そざい}素材を使った商品があるよ。たくさんの人の^{きょうりょく}協力で商品はうまれるんだ。」



島の特産品調べ

特産品	特産品
原料	原料
特産品	特産品
原料	原料

② 文化財をいかしたまちづくり



「平成29年(2017年)に^{りんこうやま いせき}燐鉱山の遺跡が国の史跡に、平成31年(2019年)に^{しゅうらく じゅうようぶんかてきけいかん}字港の集落が国の重要文化的景観にえらばれたよ。^{きちょう ぶんかざい みらい}貴重な文化財を未来の子どもたちに伝えながら、^{かんこう}観光などにいかしていく島づくりがはじまっているんだ。」



「^{こわ}壊れた建物を直して昔の^{すがた}姿にもどしたんだ。島の食べ物屋さん“トロッコ”がある建物も文化財だって。」

しせき りんこうせき しせつ 史跡 / 燐鉱石をつくるための施設



戦前



現在

ちよぞうこ
貯蔵庫



戦前



現在

さいくつじょう
採掘場

燐^{りん}鉱^{こう}石^{せき}は昔の^{かた}アホウドリの^{かた}フンが固^{かた}まったものと言われているよ。



やってみよう

- ① ^{いせき}燐鉱山の遺跡や^{しゅうらく}字港の集落で、昔の建物や^{しせつ}施設のあとがどこに残っているかを調べてみよう。
- ② 昔の建物や施設がどのように使われていたかを調べてみよう。

ふん か てぎけい かん りんこう やま ふうけい
文化的景観 / 燐鉱山の時代がつくった風景

しゅうらく
字港の集落



戦前



現在

てんねんきねんぶつ
島の自然 / 天然記念物

てんねんきねんぶつ きちょう どうぶつ しょくぶつ
 「天然記念物は、貴重な動物や植物を守っていくためのものだよ。」



ダイトウオオコウモリ



しょくぶつぐんらく
 長幕の植物群落



考えて
 みよう

- ① 文化財を守るために自分たちでできることは何だろうか。
- ② 文化財をいかして島のみりよくを高めるためにはどんなことができるだろうか。

また会う日まで



おんな天狗^{てんぐ}は、タケルとアマネの最後の島たんけんを空高くからじっと見守っていました。

「2人は自分たちだけでとてもよく考えられるようになったでおじゃるな。助けがなくても、きっと、考える力が2人のことを支えていってくれるとわしは思うぞ。

また、2人のような子どもたちが出てくるまで、じっくり待つとするか？ 楽しみだな。アホウ。」

「アホウ！アホウ！」



おんな天狗^{てんぐ}とアホウは、今日もまた空から島を見守っています。島のサトウキビの緑はいつもあざやかで、海の青はとても深い色をしています。

「また会うでおじゃるぞ。あばよーい。」

監修 高良倉吉（琉球大学名誉教授・琉球史）

編集委員会 委員長：仲嶺仁介（北大東村教育委員会 教育長）
副委員長：島袋勝範（北大東小中学校 校長）
委員：伊井秀治（北大東中学校 教頭）
委員：服部 敦（中部大学教授・北大東村政策参与）
委員：村吉政人（北大東中学校 教諭）
委員：寒川 彩（北大東小学校 教諭）

編集協力 ボーダーインク / 株式会社国建
デザイン制作 ぐりもじゃ・サスケ
キャラクター監修 さどやん
資料・写真提供 北大東村役場、服部敦、株式会社国建

社会科副読本 小学校3・4年生

ふるさと 北大東村のくらし

初版発行 2020年3月

企画・構成・執筆：服部敦

編集・発行：北大東村教育委員会

〒901-3902 北大東村字中野218

電話：09802-3-4138

印刷：(株) 東洋企画印刷

© kitadaitouson kyoikuiinkai 2020. Printed in Okinawa, Japan



写真 / 左上：燐鉱石採掘場
 左中：燐鉱石の量を計っている
 左下：燐鉱石貯蔵庫
 上中央：燐鉱石を洗う作業風景
 右上：燐鉱石の積出し風景
 右中：積荷棧橋の風景
 右下：燐鉱石を積んで走るトロッコ

北大東小学校

3年

組

番

4年

組

番

名前：